

第4回伊勢原市男女共同参画推進委員会 会議録

〔事務局〕 人権・広聴相談課

〔開催日時〕 令和5年6月8日（木曜日）午後7時～午後9時

〔開催場所〕 伊勢原市役所 2階 2C会議室

〔出席者〕

（委員） 和田委員長、紫牟田副委員長、渡辺委員、吉田委員、片伯部委員、
臼井委員、小林委員 7名

（事務局） 人権・広聴相談課長、ほか2名

〔公開可否〕 公開

〔傍聴者数〕 0人

〔配付資料〕

- 資料1 いせはら男女共同参画フォーラムについて
- 資料2 令和4年度いせはら男女共同参画フォーラム アンケート集計結果
- 資料3 令和5年度男女共同参画推進委員会 年間スケジュール
<資料番号なし>
- 第2次伊勢原市男女共同参画プランの点検・評価について
- 男女共同参画社会を考える情報誌「ききょうフォーラム通信」第65号

《審議の経過》

1 議事

(1) いせはら男女共同参画フォーラムについて

- 事務局より、資料1～3を用いて令和4年度の総括及び令和5年度の企画について、説明した。

（委員長）

講師やテーマについては、協力を依頼している高校から意見等を聞きながら、共に企画・運営できないかも含めて、検討していければと考えている。

（委員）

自分の子どもやその友人と接していると、価値観が異なっていることを実感する。高校生がどんなことを考えているか、関心がある。

（委員）

高校だけでなく、大学もあるので、将来的には大学とも連携ができると良いと思う。社会に出ていくためのステップアップをしている年齢のため、違った視点があるかと思う。

（委員長）

開催予定を1月としているが、早い日程での開催は可能であるか。

(事務局)

1月以前も準備が整えば開催は可能である。

ただし、事務局では11月28日に人権啓発講演会の開催を予定しているため、そちらとの調整が必要である。

時期については、昨年度に引き続き、会場開催と動画配信を併用して実施することを前提に、高校との連携も調整しつつ、検討をさせていただきたい。

(委員)

市内には他にも高校があるので、1つの高校だけでなく、他校にも取組を広げていけると良い。高校生との連携は、楽しくできて良いと思う。今後に繋がっていくと良い。

今後、高校生と一緒にフォーラムをやっていくとなると、土日の開催となるか。

(事務局)

高校生の日程に合わせると、そうなることも考えられる。

(2) 第2次伊勢原市男女共同参画プランの点検・評価について

○事務局より、第2次伊勢原市男女共同参画プランの点検・評価について、委員へ評価の提出を依頼した。

○委員長より、「男女共同参画推進伊勢原カルテ」（点検・評価シート）の記入方法について、説明があった。

●10段階評価は、全委員が全ての施策（7つ）を、施策ごとに評価していただきたい。「課題と提言」は、振り分けられた分野を記載いただきたい。加えて、他分野も記載いただいても構わない。

●評価について、個人の主観で良いし、所属団体と相談してもらっても構わない。各委員に評価してもらったものは、計画調整会議にて協議し、取りまとめて点検・評価報告書を作成する。各委員の評価がそのまま記載されるとは限らない。

(委員)

評価に際して、基礎資料に書いてあることを100%として、評価をしていけば良いか。

(委員長)

基礎資料に書いてあることに対して、各委員の主観で、取組が「良い」「悪い」「十分」「不十分」などを評価してもらえれば良い。

市担当の評価を参考に、もっと取り組んで欲しいと思うところは厳しく、十分できていると思うところは高い点数をつけて良い。

(委員)

カルテに記載した「課題と提言」は、次の第3次伊勢原市男女共同参画プランに反映されるのか。

(委員長)

プラン本体は完成しているため、直接は反映・追記などはされない。

ただし、第3次プランに同様の施策・事業があれば、その取組へフィードバックされることになる。

(3) 第2回勉強会「男女共同参画推進委員会が提案する災害避難所の姿を考える」
○委員長より、避難所の運営に関し、国外の取組などの紹介があった。グランドデザインやイメージについて、例示があった。

※概要は、別紙のとおり

(委員)

市内の小学校は、自校給食で給食室があるため、災害時にその設備が使用できると良い。

(委員)

学校に勤めているが、使用して良いという話は、聞いていない。

(委員長)

ルール化がされていないのではないかと思う。

物流が止まるので、残ったもので調理するようになるかと考えられるが、聞いたことはない。

(副委員長)

物流に関しては、災害時の物資の供給について他市と協定をしているが、近すぎると協定先も被害を受けている可能性がある。被害を予測して協定を広げてもらいたい。

また、ハザードマップが作られているが、分かっていない人は多いのではないか。大山への観光客もいるため、周知方法が考えられると良い。

(委員長)

大山へ続く海側からの観光ルートを整備するとともに、避難ルートにできると良いと考えている。海側の市町では、津波から逃げてくる人が一定数見込まれる。避難のための道路整備を観光に、観光のための整備を避難に生かせると良い。

(副委員長)

見える化することも大切だと思う。風速などについては、ホームページなどで閲覧できるようになってるが、備蓄品の状況も分かると安心だと思う。分からないということが、不安の1番の原因である。

(委員)

備蓄については、1週間分を目安と言われていたが保存場所を確保するのも大変であるし、足りるか不安もある。

(副委員長)

自治会が管理に携わっていると、外国人などの未加入者には配分しないと主張する人もいる。そういった意識も変えていく必要があると思う。

(委員)

備蓄倉庫の管理は、消防団も携わっている。総合防災訓練のときに、倉庫の中を公開したり、期限の近い食品を配布したりしている。訓練に参加すると分かることだが、訓練に参加しない・できない人は知らないと思うので、広めていけると良いと思った。

(委員)

避難所運営会議に参加していると、避難所を開設する部分はシステムとしてでき

ているが、維持していく部分はできていない印象である。実際の災害に備え、考えていくことができると良い。

また、小学校の中には、井戸を整備して、マンホールトイレを設置できるようにしているところもある。トイレの環境は、少しずつ良くなっていると感じている。

(委員長)

休耕地や空き地について、平時は駐車場やスケートボード場などとして利用し、災害時に避難所としてテントを建てる場所にしても良いかと思う。

こういった形で、委員の皆さんの意見を伺っていきたい。

(事務局)

分からない・知らないと不安であるという意見もあったため、まずは委員の皆さんが知識を身につけられると良いかと思う。

危機管理課へ出前講座を依頼することができるか確認をするが、委員の皆さんに受講希望はあるか。

(委員)

希望あり。

(事務局)

では、危機管理課との調整を進めさせていただきたい。

(委員)

総合防災会議を傍聴することはできないか。

(事務局)

傍聴は可能である。

担当課によると、次回の会議の開催時期は未定とのことである。傍聴は定員があり、抽選制であるため、全委員の傍聴は難しいと思われる。

開催が決まったら事務局へ連絡いただけるため、傍聴に向けて調整させていただきたい。

(3) その他

○案件なし

以上

男女共同参画推進委員会が提案する災害避難所の姿を考える 概要

- 災害関連死の防止には、避難所の環境が重要
- 避難所は、TKB（トイレ・キッチン・ベッド）がポイント
 - トイレ
トイレに行かなくなると、体調を崩すメカニズムが判明している
 - キッチン（＝食事）
備蓄品などの食事は、冷えていたり、バランスが取りづらかったりする
 - ベッド
一人あたりのスペースは狭く、パーテーションもなく、雑魚寝。何日耐えられるか
- イタリアの取組
 - キッチン
キッチンカーで炊き出し（有事に使用できるよう、整備している）
調理師免許を持つ人を有償ボランティアとして事前に登録
 - ベッド
家族用のテントとベッドを整備。グラウンドなどの広い場所に設置。カーペット敷きで、冷暖房完備
- 長期化や規模が大きくなったとき
 - テントやキッチンカー、コンテナトイレなど、配置基準の整理が必要
 - 生活空間（温度、換気など）について、日本の現状では、国際赤十字の求める基準を満たしていない
 - 性被害や窃盗・略奪、DV被害者、性的マイノリティに関する対応も必要
⇒病気、障がい、高齢、アレルギー、精神疾患、乳幼児、妊産婦など、より細やかな対応が必要となる人も
- 「SP&TKB（スペース・プライバシー&トイレ・キッチン・ベッド）」の視点で考えてみる
 - ポップアップテントの活用
 - トイレは、一定の広さを確保し、使いやすく、掃除もしやすく
 - キッチンカーやかまどベンチの整備
 - 段ボールベッドやアウトドア用簡易ベッドの活用

※委員会では、「こういうものがあつた良い」とアイデアをたくさん出していく

※今後、グラウンドデザインやイメージとしてまとめ、市に提言していく（第3次プランに、主な事業として掲載：施策の方向2）